

令和5年度第2回三重県リニア推進会議

日時：令和6年2月27日（火）16時10分～16時25分

場所：県庁3F プレゼンテーションルーム

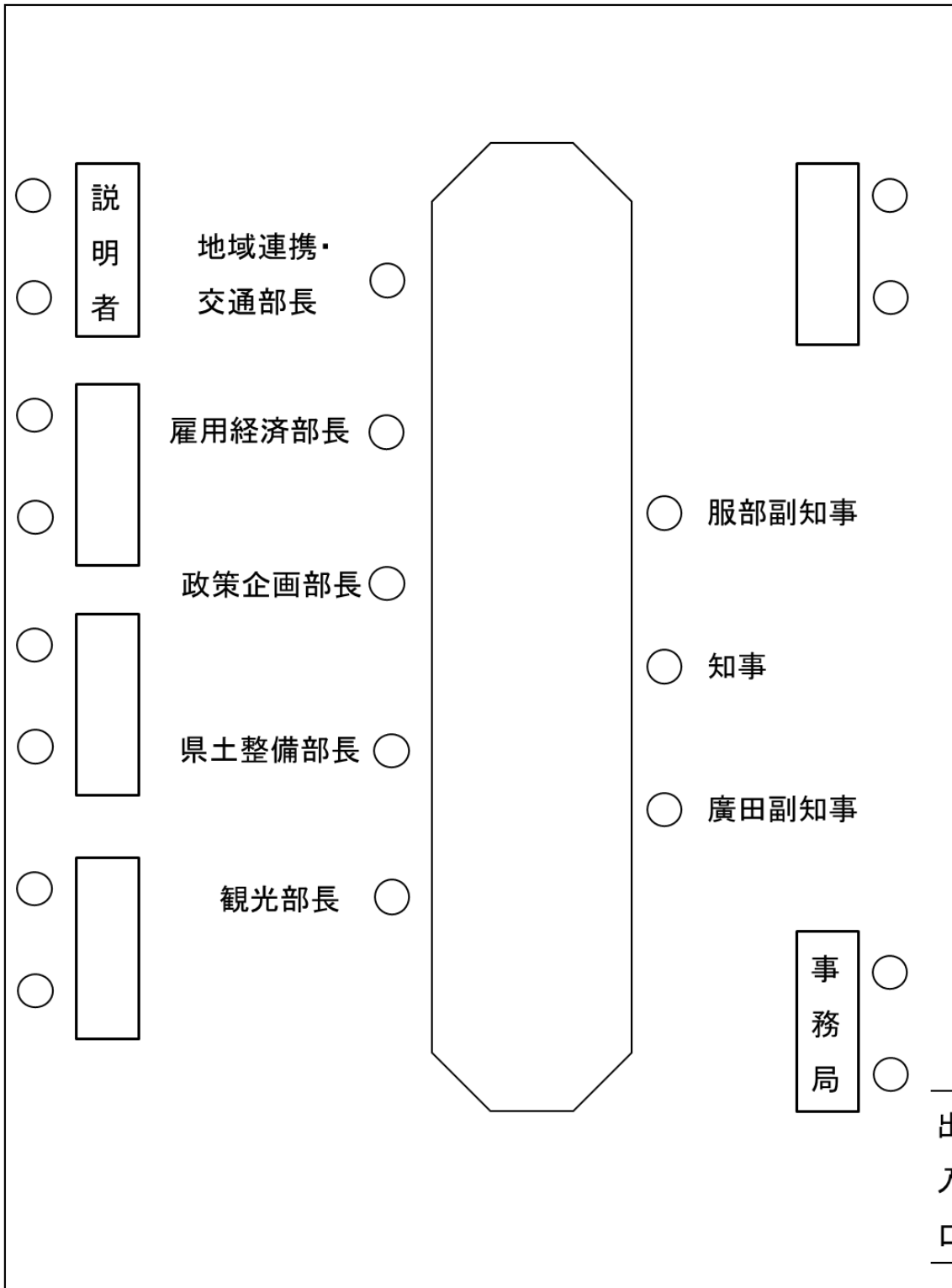
事項：三重県リニア基本戦略（仮称）最終案について

（配布資料）

- ・ 座席表
- ・ 別紙1：「三重県リニア基本戦略（仮称）」最終案への意見について
- ・ 別紙2：「三重県リニア基本戦略（仮称）」最終案
- ・ 別紙3：「三重県リニア基本戦略（仮称）」最終案（概要版）
- ・ 別紙4：「三重県リニア推進本部」設置要綱

令和5年度第2回三重県リニア推進会議(2月27日)座席表

プレゼンテーションルーム



「三重県リニア基本戦略(仮称)」最終案への意見について

三重県リニア基本戦略(仮称)については、昨年12月から本年1月にかけて中間案に対し、パブリックコメントを実施するとともに、改めて有識者や経済団体、市町への意見聴取及び庁内での議論等を行い、最終案をとりまとめました。

1 最終案に向けた意見照会の結果(意見総数: 153件)

対応区分	パブ コメ	県議会	有識者	経済 団体	市町	庁内	計
①最終案に反映するもの	28	3	24	2	5	18	80
②既に反映されているもの	2		2				4
③今後の参考にさせていただくもの	57			2	4	3	66
④反映又は参考にすることが難しい	3						3
計	90	3	26	4	9	21	153

(参考) 中間案作成時: 計 335 件 (有識者 38 件、経済団体 107 件、市町 169 件、庁内 21 件)

2 中間案からの主な変更点

3 リニア開業がもたらす効果

(1) リニアがもたらすインパクト【本冊 P5、6】

意見	日本の中心に位置する三重県が、リニアによって全国各地とより近くなることで、今後大きく飛躍する可能性があることを表現した方が良い。(有識者)
対応	P5 に日本全体の高速交通網を示した新たなページ(イメージ図)を追加。

意見	リニア等の建設にあたっては、災害に対するリスク対応もかなり高いレベルで建設されることから、高速道路とあわせて災害時の復旧・復興にも大きな力となる可能性がある。(有識者)
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ P6 に災害リスクの■として以下を追記。 「新幹線・高速道路ネットワークとの連携によって日本の交通の要衝となり、大都市圏の中核機能のバックアップ拠点や災害時の復旧・復興にも大きな力となる可能性が期待されます。」 ・ P19 に4つ目の■として以下を追記。 「リニアがもたらす防災上の効果を最大限に発揮させるため、災害時の支援拠点として防災拠点機能の補完・強化や効率的なエネルギーの運用などによる災害に強いまちづくりを検討していきます。」

(2) 懸念される課題【本冊 P7】

意見	懸念される課題を示すだけでなく、課題に対する取組やリニア開業によって期待される効果と併せ、より丁寧に記載した方が良い。(有識者)
対応	課題に対し、県の取組を示しながら全体の文章を再整理。

意見	三重県駅の開業に向けて県民の皆さんと歩いていくためには、人を呼び込むだけでなく、県民自身の生活の利便性向上の視点も重視することが必要である。 (庁内)
対応	P7 の 1 つ目の■を「～未来デザインを描き、 <u>県民生活の利便性向上に資する取組や、県をまたぐ広域から人やモノを呼び込む取組を進めていきます。</u> 」に修正。

意見	リニア新幹線の名古屋～大阪間ルートに関して地震リスクが極めて高い三重県の伊勢湾沿岸部にルートを設定することは、いくつもの活断層帯があるところを横切ることになるのではないかと不安である。(パブコメ)
対応	5 つ目の■として以下を追記。 「巨大災害リスクの切迫が懸念されます。そのため、リニアの整備にあたっては、巨大災害リスクに対するリダンダンシーの確保に資するよう、駅をはじめとした施設全体の災害に対する強じん性を高めることなどを事業主体である JR 東海に対し求めるとともに、災害に備えた取組を検討していきます。」

4 めざす三重の姿

(1) 新たな玄関口から始まるこれからの時代に選ばれる三重【本冊 P8、9】

意見	リニアが出来た 10 年、20 年後を想定した場合、どういった社会を目指すのかについて、もう少しわかりやすく示した方が良い。(有識者)
対応	・ P8 に総合計画「強じんな美し国ビジョンみえ」で示す、めざす三重の姿を記述した新たなページを追加。 ・ P9 の「めざす三重の姿」を再整理。

意見	三重県は二地域居住やワーケーションへのポテンシャルがかなり高い。 (有識者)
対応	P9 のめざす姿の 3 つ目に「癒しの空間「日本のサードプレイス」として、」を追記。

(2) 選ばれる三重となるために【本冊 P10】

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋駅へ向かう方が優位性の高い地域においては、リニア名古屋駅との時間距離の一層の短縮を図る必要がある。 ・次世代交通に対応することも重要ではあるが、既存インフラの価値を最大限高め効果的に活用することこそ重要であると考えている。(以上、パブコメ)
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・P10に「また、東京・名古屋間、東京・大阪間の段階的な開業を見据え、それぞれのステージに対応した取組を進めていきます。」を追記。 ・2つ目の■を「<u>既存の交通インフラを最大限に活用しつつ、リニア駅からの乗り換えの効率を追及して、出発地から目的地まで円滑に移動できる環境をめざします。</u>」に修正。

5 めざす三重の姿にむけての3つの基本戦略

戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルのイメージ【本冊 P13】

意見	<p>リニア時代の新たなライフスタイルのイメージについて、三重県より都会が良いように見えるので、三重との関係性について表現を工夫した方が良い。 (有識者)</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・P13のイメージ図を一部修正。 ・イメージ図下欄に補足説明文を追記(戦略2【P15】、戦略3【P17】も同様)。

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大【本冊 P16】

意見	<p>取組3で「災害に備えたバックアップ機能の強化、リスクの分散」とあるが、県内企業が県外へ機能移転するイメージなのか、県外企業が県内に機能移転するイメージなのかが不明瞭。(市町)</p>
対応	<p>取組3を「<u>行政・企業・高等教育機関の機能移転やバックアップの拠点となる三重に</u>」に修正。</p>

6 基本戦略を支える基盤づくり

(1) リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成【本冊 P18】

意見	<p>めざす姿に「県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展」とあるが、県外とのアクセスについて記述するべきではないか。(県議会)</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・取組2「新たな玄関口とつながる道路ネットワークの整備」の検討テーマに「●<u>県内外との交流・連携を支える道路ネットワーク強化</u>」を追記。 ・P20に広域圏高速交通ネットワーク図を追加。

意見	<p>県内各地への交通ネットワークアクセスについて、かなり有利な利便性をリニア三重県駅に見出さないと、利用者はリニア名古屋駅から私鉄接続による県内への移動を選択し、リニア三重県駅の利用率が上がらないのではないかと。 (経済団体)</p>
対応	<p>取組3の2つ目の●を「<u>東京・名古屋間の開業および全線開業のステージ毎に応じた県内外の既設鉄道網の利便性・快適性の向上(乗り換え利便性、高速化、観光列車・直通列車の運行等)</u>」に修正。</p>

(2) リニア三重県駅を核としたまちづくり【本冊 P19】

意見	他県のリニア戦略では、駅周辺のまちづくりにかかる役割分担について記述されており、混乱のないように同様に記述すべき。(県議会)
対応	2つ目の■を「～民間資本の誘致や誘導などを含めて機能配置や、整備・運営手法、役割分担等について検討を深めていく必要があります。」に修正。

・リニア三重県駅を核とした交通ネットワークイメージ【本冊 P20】

意見	交通ネットワークイメージ図について、この図は高速バスを核としたイメージと見えるため、公共交通や道路を含めたイメージとしたほうが良い。 (県議会)
対応	・交通ネットワークのイメージ図を修正。 ・P21 に次世代交通のイメージ図を追加

7 これからの取組【本冊 P22】

意見	県内の連携体制をどのように構築するのか(産官学足並みをそろえて、戦略を進めていく体制をつくることができるか)。(有識者)
対応	「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に向けて、新たな検討体制を構築する予定。

3 今後の対応

「三重県リニア基本戦略(仮称)」が示す「めざす三重の姿」の実現に向け、具体的な取組みをまとめた行動計画として「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に着手します。



三重県リニア基本戦略(仮称) 最終案

令和6年(2024年)3月
三重県 地域連携・交通部

目次

1 戦略策定の趣旨	1
(1)はじめに	
(2)戦略策定の趣旨	
2 特に留意すべき社会情勢の変化	3
(1)人口減少・高齢化の進展	
(2)暮らし方・働き方の変化	
(3)デジタル技術の進展	
(4)巨大災害リスクの切迫	
3 リニア開業がもたらす効果	4
(1)リニアがもたらすインパクト	
(2)懸念される課題	
4 めざす三重の姿	8
(1)新たな玄関口から始まるこれからの時代に選ばれる三重	
(2)選ばれる三重となるために	
5 めざす三重の姿に向けての3つの基本戦略	11
戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出	
戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大	
戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大	
6 基本戦略を支える基盤づくり	18
(1)リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成	
(2)リニア三重県駅を核としたまちづくり	
7 これからの取組	22

(1) はじめに

- リニア中央新幹線(以下「リニア」という。)は、東京・名古屋・大阪間の時間距離を大幅に短縮し、三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」を形成し、巨大な経済圏を生みだします。
- また、東京・大阪間の東海道新幹線との二重系化による災害に強い国土を形成するなど、わが国の新たな国土の大動脈として経済社会を支え、日本経済の再生に向けた動きを加速させ、さらに日本を大きく成長させる原動力となる国家的プロジェクトです。
- 2037年に東京・大阪間の全線開業が予定され、本県にはその中間駅として亀山市内にリニア三重県駅が設置される予定です。



出典：第三次国土形成計画(参考資料)(R5.7)を一部加工



出典：リニア中央新幹線建設促進期成同盟会パンフレット(R4.10)を一部加工

(2) 戦略策定の趣旨

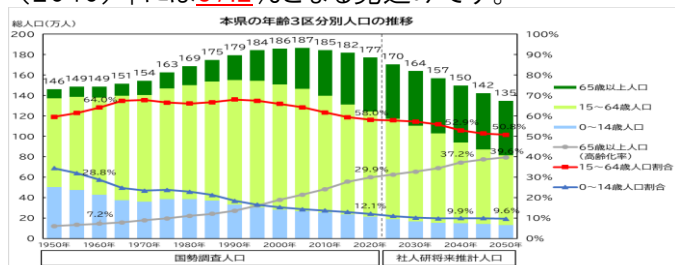
リニア効果の発現を期待ではなく必然へ

- リニアの開業は、空港や新幹線駅がない本県にとって、初めての高速鉄道駅の設置となり、リニア三重県駅を中心に新しい三重の未来デザインを描く、またとない機会です。
- リニア三重県駅は、多くの人、モノ、情報が行き交う新たな玄関口となり、人口減少対策などに大きな役割を果たすことが期待でき、本県が飛躍的に発展するチャンスとなります。
- リニア開業効果を県全体へ波及・発展させていく取組の方向性を示し、リニアとともに本県が歩む将来のイメージを県民の皆さまと共有することを目的に「三重県リニア基本戦略(仮称)」を策定します。



(1) 人口減少・高齢化の進展

- ピーク時に約187万人だった三重県の人口は、リニアが全線開業する予定の令和19(2037)年の3年後、令和22(2040)年には約150万人程度になる見込みです。
- 今後少子化はますます進むものと推定され、令和2(2020)年に約103万人であった生産年齢人口は、令和22(2040)年には約79万人と、約4分の3にまで減少する見込みであり、その結果、高齢化率は令和22(2040)年には**37.2%**となる見込みです。



出典:三重県人口減少対策方針(R5.8)(一部データ更新)

(2) 暮らし方・働き方の変化

- ICT技術の進展とも相まって、テレワークの導入等の働き方改革がより進展しつつあり、就労を含む生活の主な拠点を地方に移し、都市との関わりも残すという、新たな二地域居住が可能となります。こうした新しい生活スタイルは、地方での豊かな自然・生活環境、自己実現、ふるさと回帰等への志向に 대응するとともに、地域活性化の面でも期待されています。
- また、人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面している状況であり、「定住人口」や観光による「交流人口」に加え、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が、地域づくりの担い手となることも期待されています。

(3) デジタル技術の進展

- 高度なネットワークなど、情報通信基盤が整備され、デジタルの力を全面的に活用することで、地域の個性と豊かさを生かしつつ、都市部と変わらない利便性を兼ね備えた地域が県内でも形成されます。
- 三重県では、「デジタルが社会に浸透することによって、誰もが、直接的、間接的にデジタルの恩恵を受けることができる社会」をデジタル社会ととらえ、その形成を推進し、デジタル社会の形成により、「心豊かな暮らし」と「持続可能な地域社会」が実現されている三重県をめざすこととしています。

みえのデジタル社会の形成



各分野のDXを推進 → デジタル前提の社会へ → デジタル社会の「めざす姿」

出典:みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画(R4.12)

(4) 巨大災害リスクの切迫

- 南海トラフ地震の発生確率は、今後30年間で約70~80%となっており、地震等により甚大な被害の発生が予想される三重県としては、災害発生後、迅速かつ的確に緊急対策活動を実施する必要があります。

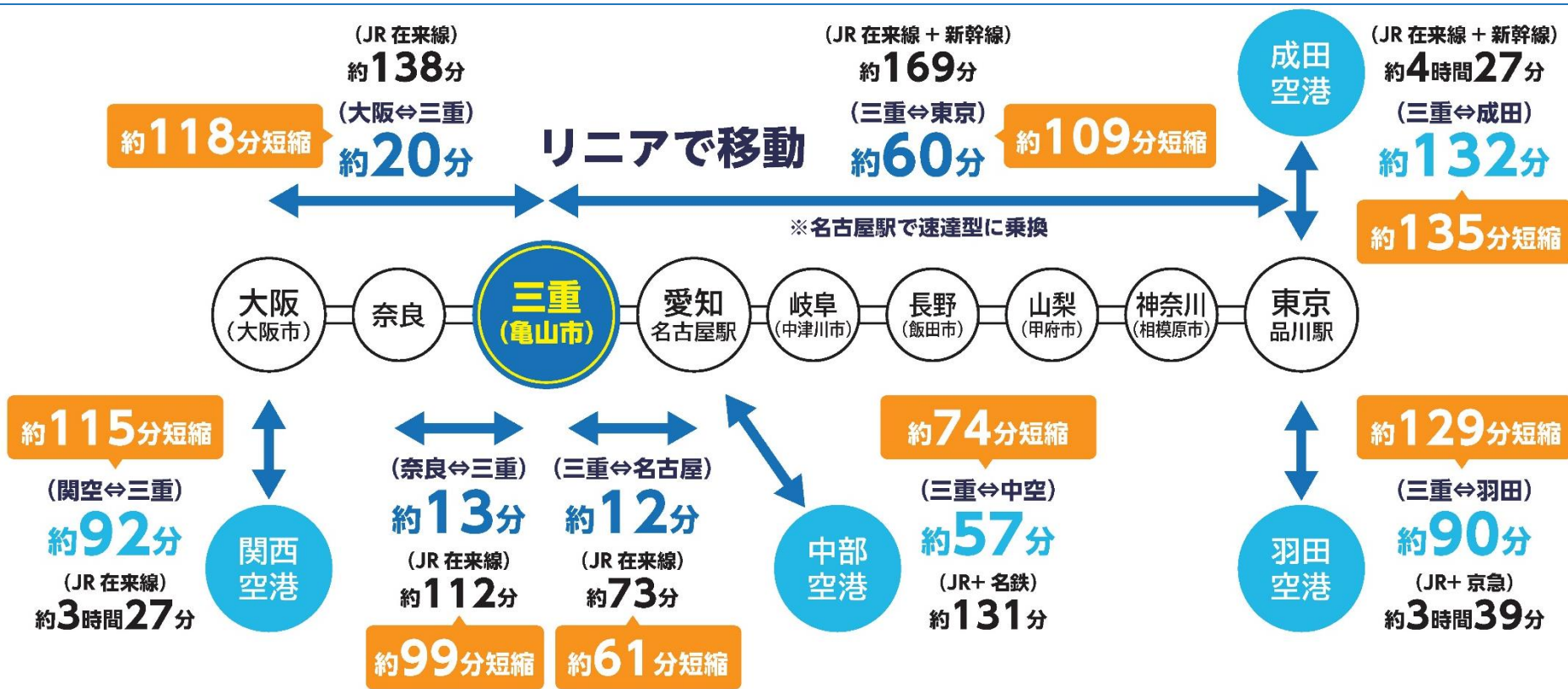
南海トラフ巨大地震の想定震度の最大値の分布図



出典:JR東海リニアパンフレット(R5.6)

(1)リニアがもたらすインパクト

時速500kmのスピードで、東京と約60分、大阪と約20分で結ばれ、国際空港とのアクセスも格段に向上します。



- 東京(品川駅)まで 約 60分 【約109分短縮】
 - 大阪(新大阪駅)まで 約 20分 【約118分短縮】
 - 成田空港まで 約132分 【約135分短縮】
 - 関西空港まで 約 92分 【約115分短縮】
- ※リニア移動による各所要時間は三重県が推計したもの
 ※「三重」はJR亀山駅、「奈良」はJR奈良駅、「大阪」はJR新大阪駅を想定
 ※リニア駅での乗換は約8分で設定
 ※「三重～リニア品川駅」までリニア各駅停車型の場合は約82～87分
 ※JR在来線・新幹線はJR亀山駅を令和5年10月平日午前7時に出発した場合

(1) リニアがもたらすインパクト

新

三重県は日本の中心に位置し、リニアと延伸される高速道路や新幹線、空路の高速交通とが連結強化することで、本県が大きく飛躍する起爆剤となります。



出典: スーパー・メガリージョン構想検討会参考資料(R元.5)



※地図上に記載している空港以外に、その他空港(滑走路2km以上)として奄美空港、徳之島空港、久米島空港、宮古空港、下地島空港、新石垣空港、与那国空港がある。
※高規格道路ネットワーク図については2022.4.1時点の情報。また、首都圏、中部圏、近畿圏、札幌、仙台、広島、北九州、福岡都市圏については、一部の路線を明示していない。
※本地図は我が国の領土を網羅的に記したものではない。

(1)リニアがもたらすインパクト

新

暮らし

“いつでも”“どこでも”が可能に！

都市・地方間の移動利便性が向上し、新たなビジネススタイル・生活スタイルが誕生します。

- 移動時間の短縮とデジタル技術の活用により、多様な暮らし方・働き方が選択可能となることで、県内における定住の促進、関係人口・交流人口の増加、県外からの移住の促進が期待されます。

観光・交流

日本各地がより身近に！

旅行者、訪問回数や周遊場所の増加が見込まれ、人や情報の交流が活発になり、新たなイノベーションが生まれます。

- 三重でしか味わえない上質な体験コンテンツや三重の食や食文化を生かしたツーリズム(ガストロノミーツーリズム)を提供することで、旅行者の滞在の長期化や海外からの高付加価値旅行者の増加が期待されます。

産業・経済

首都圏・中部圏・近畿圏が一体化！

3つの大都市(東京・名古屋・大阪)が約1時間で結ばれ、大きな経済効果がもたらされます。

- 交流が活発になる環境や立地環境を向上させることで、ビジネス交流や販路の拡大、新たな産業・雇用の創出、若者・女性の定着が期待されます。

災害リスク

災害リスク分散で安全・安心！

「リニア」と「鉄道・高速道路ネットワーク」の多重化・代替性の強化で、災害リスクが分散されます。

- 鉄道・高速道路ネットワークとの連携によって日本の交通の要衝となり、大都市圏の中核機能のバックアップ拠点や災害時の復旧・復興にも大きな力となる可能性が期待されます。

(2) 懸念される課題

- 交流の拡大が期待される一方、大都市圏への企業や労働力、居住者などの流出といったストローク現象が懸念されます。
そのため、リニア開業に先んじて、令和5年8月に策定した「三重県人口減少対策方針」に基づく取組を進めるとともに、リニア駅を中心とした未来デザインを描き、県民生活の利便性向上に資する取組や、県をまたぐ広域から人やモノを呼び込む取組を進めていきます。
- 交通が便利になると観光客の増加が期待される一方、日帰り旅行者が増え、宿泊客が減ることが懸念されます。
そのため、県内における宿泊者数の増加に向けて、三重県の強みを生かした戦略的なプロモーションの展開や、三重県を拠点とした滞在型観光の推進、海外からの高付加価値旅行者の誘致など、令和6年3月策定予定の「三重県観光振興基本計画」をふまえた取組を進めていきます。
- 巨大な構造物となるリニア駅本体やリニア本線により、沿線地域や景観等への影響が懸念されます。
そのため、県内ルートや駅位置の確定後に地域の方々の声を聞きながら、JR東海や関係市町と連携して対応を検討していきます。
- 建設発生土の処理など工事に伴う課題が懸念されます。
これまでの事例をふまえ課題の未然防止につながるよう、事業主体であるJR東海に必要な対策を求めるとともに、解決に向けて連携して取組んでいきます。
- 巨大災害リスクの切迫が懸念されます。
そのため、リニアの整備にあたっては、巨大災害リスクに対するリダンダンシーの確保に資するよう、駅をはじめとした施設全体の災害に対する強じん性を高めることなどを事業主体であるJR東海に求めるとともに、災害に備えた取組を検討していきます。

三重が持つ強みや特徴を生かし、国内外から選ばれる三重の実現をめざして

- 令和4（2022）年に策定した総合計画「強じんな美し国ビジョンみえ」において、「強じんで多様な魅力あふれる『美し国』」の実現を基本理念に掲げ、三重に暮らす県民の皆さんが未来に希望を持ち、幸福を感じながら、元気に、かつ安全・安心に暮らすことのできる持続可能な三重県の実現をめざしています。
- 今後、人口減少・高齢化の進展、暮らし方・働き方の変化、デジタル技術の進展、巨大災害リスクの切迫など、暮らしや経済を取り巻く環境は大きく変化していきます。
- 人口減少対策の取組や、県内外の観光・ビジネス交流の発展に向けた取組を加速させ、県民の皆さんはもちろん、県外、さらには国外の方々にも選ばれる三重の実現をめざすには、リニア開業がもたらす効果を最大限に活用することが極めて重要となります。

総合計画「強じんな美し国ビジョンみえ」(令和4(2022)年10月)を抜粋 (地域の特性を生かした「強じんで多様な魅力あふれる『美し国』」)

県の北中部地域においては、交通の利便性やものづくり産業の集積などの優位性を生かし、カーボンニュートラルの動きにも対応し、観光も含めた産業の一層の振興を図ることで、大都市からビジネスなどで多くの人を訪れるとともに、都市への近接性と良好な生活環境の両方の魅力を兼ね備えた暮らしやすい地域にしていきます。

南部地域においては、地域の特性を生かして、観光産業の一層の振興を図るとともに、スマート化などによる担い手の確保や生産性向上を通じて農林水産業を持続可能な産業とすることや、自然の恵みを楽しむ豊かな暮らしを積極的にPRすることなどで移住・定住を促進し、活力が向上していく地域にしていきます。

三重県は、歴史的に癒しの空間、祈りの場であり、伝統文化を体感できる地域です。県内全域で、現代人の精神的な豊かさにもつながるよう、「癒し」、「祈り」、「伝統文化」をキーワードに、各地の歴史・文化資産や自然を生かし、さまざまな価値や快適な空間を提供していくことで、国内外から多くの人が集まり、自立的・持続的に発展していく地域にしていきます。

(1) 新たな玄関口から始まるこれからの時代には選ばれる三重

新街道※1で、三重での暮らしをより快適に、三重の魅力をもっと身近に便利に

リニア開業によって実現する大都市圏との広域ネットワークや、リニア三重県駅を中心とした県内の地域を結ぶネットワークを構築することで、新たなリニア広域生活圏※2を形成するとともに、リニア開業効果を県全体へ波及・発展させ、次の3つの姿を実現する、これからの時代には選ばれる三重をめざします。

圧倒的な移動時間の短縮と先進的な技術を組み合わせることにより、三重の豊かさと大都市圏の多様さを手に入れる**リニア時代の新たなライフスタイルを創出**

都市部だけでなく、近隣県との連携が進み、実用化が進む自動運転や空飛ぶクルマなどの次世代交通に対応したリニア三重県駅と地域交通拠点※3とが効率的に結ばれ、**県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展**

自然の恵みや歴史・文化、産業など南北に連なる県内各地の豊かな魅力と新たな玄関口が繋がることで、**癒しの空間「日本のサードプレイス※4」として、三重にしかない暮らしや、働き方、来訪スタイルを実現**

※1 新街道…リニア三重県駅と地域交通拠点を次世代交通等で結ぶ新たな交通網。

※2 新たなリニア広域生活圏のイメージ

リニア駅を中心に県内の都市やリニア沿線の都市と一体的な圏域を形成し、都市部の企業や大学への通勤・通学、高度な医療機能が利用可能となり、特別な買い物・趣味・娯楽やリニア駅からつながる観光地などを気軽に楽しむことができる**圏域**。

※3 地域交通拠点のイメージ…県内各地域の玄関口となる交通結節点で、地域の施設を結ぶ様々な交通手段の接続・乗継拠点。

※4 日本のサードプレイス

サードプレイスとは、自宅や職場以外の居心地のよい第三の居場所の意で、ここでは日本の中心に位置し、国内外からアクセスしやすく、三重が持つ歴史・文化、癒し・安らぎを体感できる快適な空間を示す。

(2) 選ばれる三重となるために

三重での暮らしをより快適にし、三重の魅力をもっと身近に便利にするために、次の5つの戦略的な視点をベースにして、めざす三重の姿に向けての基本戦略を策定します。

また、東京・名古屋間、東京・大阪間の段階的な開業を見据え、それぞれのステージに対応した取組を進めていきます。

利便性の向上

■ リニア三重県駅周辺エリアの計画的な機能配置と戦略的な地域交通拠点の機能強化

リニア駅周辺に交通結節機能だけでなく、交流を拡大させるための機能の配置を検討するとともに、リニア開業効果を県内全域に効果的・効率的に波及・発展させる地域交通拠点の機能を強化します。

■ リニア駅と地域交通拠点を結ぶ次世代の交通ネットワークの形成

既存の交通インフラを最大限に活用しつつ、リニア駅からの乗り換えの効率を追及して、出発地から目的地まで円滑に移動できる環境をめざします。

■ デジタルをはじめとする先端技術サービスの早期実装

近未来の技術の社会実験・実装に挑戦し、新たなライフスタイルの先進モデルの実現をめざします。

魅力発信

■ 美し国三重にしかない強みを生かした一体的なブランディング

海・山の豊かな自然や文化、独自資源等を歴史的なストーリーを含めて一体的にブランディングし、発信します。

■ 訪れたいリニア三重県駅の独自性や魅力にあふれた駅まちデザイン

新たな三重の玄関口を象徴とする空間を創出し、何度も訪れたいような駅および周辺をデザインします。



戦略1 リニア時代の 新たなライフスタイルの創出

取組1
都市部の企業や大学への通勤・通学が選択可能な三重に

取組2
地域と多様な形で関わる人が増える三重に

取組3
県外からの移住希望者に選ばれとともに定住が促進される三重に

【期待される効果】

- ・新たな暮らし方や働き方の実現
- ・関係人口・交流人口の増加
- ・移住の促進

戦略2 新たな玄関口からはじまる 観光交流の拡大

取組1
もっと身近に便利に旅を楽しめる三重に

取組2
リニア駅から魅力ある滞在型・周遊観光の旅を提供する美し国三重に

【期待される効果】

- ・観光地までの利便性・快適性・周遊性の向上
- ・インバウンドの増加
- ・旅行者の滞在の長期化

戦略3 新たな玄関口から生まれる ビジネス交流の拡大

取組1
クリエイティブな人材や企業をひきつける交流空間を創出する三重に

取組2
大都市圏の多様さと地域をつなげ新たな産業・雇用を創出する三重に

取組3
行政・企業・高等教育機関の機能移転やバックアップの拠点となる三重に

【期待される効果】

- ・イノベーションの促進
- ・新たな雇用の創出
- ・若者・女性の定着
- ・人口・企業中枢機能の分散

5 めざす三重の姿に向けての3つの基本戦略

戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出

魅力ある三重での暮らしの選択肢を広げ、多様なニーズに応える新しいライフスタイルを発信します！

取組1 都市部の企業や大学への通勤・通学が選択可能な三重に

■ 交通ネットワーク強化とデジタル技術を活用した新たな暮らし方、働き方※5モデルの創出

検討
テーマ※6

- リニア発着に合わせた定時制のある交通ネットワークの構築
- 快適なリモートワークが可能なサードプレイス環境の提供 等

取組2 地域と多様な形で関わる人が増える三重に

■ 賑わいの創出による関係人口の拡大・二地域居住の推進

検討
テーマ

- リニア三重県駅に新たな賑わいの場としての機能を創出
- 三重ならではの体験の提供など、にぎわい創出の仕掛けづくり・運営(エリアマネジメント)
- 関わりの方のコーディネート(情報発信・マッチングなど)
- 地域での一時滞在を可能とする受入体制整備(簡易宿泊施設、空き家の活用促進など)
- 三重の魅力を生かしたワーケーションの推進 等

取組3 県外からの移住希望者に選ばれるとともに定住が促進される三重に

■ 定住・移住・滞在型居住を促す魅力的な生活環境の提供

検討
テーマ

- リニアの高速移動の利便性と豊かな自然・文化を生かした移住や定住促進(転職なき移住などの促進)
- 若年層・子育て世代、女性等の定住を促す支援(大都市よりゆとりのある居住、子育て環境の提供)
- リニアとデジタルの推進による都市部と変わらない医療・教育環境の提供 等

※5 新たな暮らし方、働き方のイメージ

三重県の豊かな自然・文化の中で暮らしながら、都市の多様な仕事・学び・文化・娯楽を手に入れ、リモートワークと高速移動による通勤・通学を組み合わせた柔軟な暮らし方や働き方。

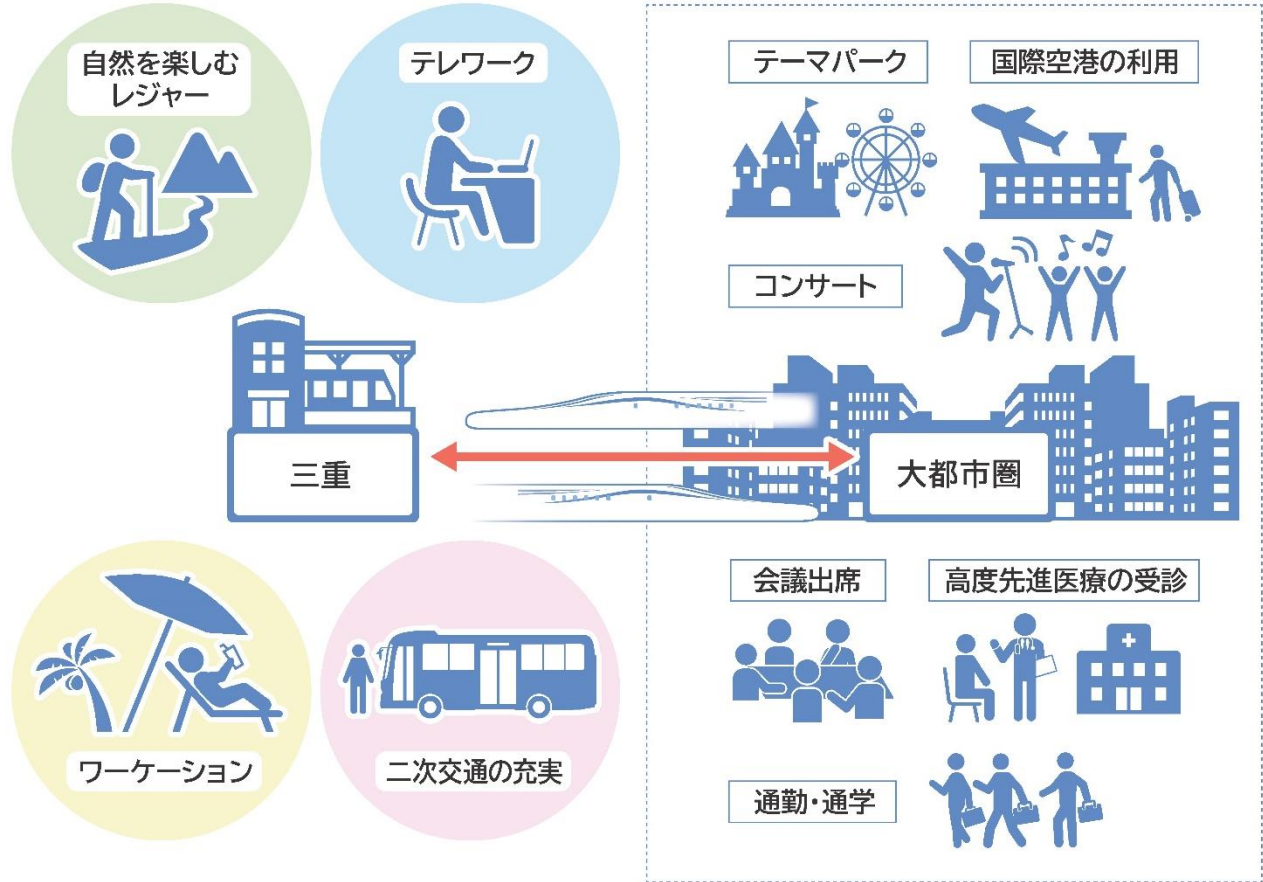
※6 検討テーマ…基本戦略の実現に向けての行動計画となる「みえリニア戦略プラン (仮称)」策定時に検討する項目の例示であり、今後、具体的な取組内容や役割分担等を検討。

リニア時代の新たなライフスタイルのイメージ

山麓エリア
ワーケーション・イメージ



海辺エリア
ワーケーション・イメージ



- 県内各地域交通拠点を核とした交通ネットワークの充実や先進技術の活用で日常生活が便利に。
- テレワークとリニアでの出張・通学の併用により、職業や進学の実選の幅が拡大。
- デジタル技術により大都市圏の機能を県内で利用できるとともに、リニアを活用してリアルな機能を享受。
- 県内各地の歴史・文化や自然を生かした、さまざまな体験や快適な空間、ワーケーション環境などを提供していくことで、国内外から多くの人々が訪れ、リピーターとなり、長期滞在や二地域居住・定住へ。

戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大

リニア三重県駅に交通拠点機能を配置し、国内外からのみえへの旅立ちをサポートします！

取組1 もっと身近に便利に旅を楽しめる三重に

■ 県内全域をカバーするゲートウェイ機能・次世代サービスの提供

検討
テーマ

- 県内全域を対象とした総合案内機能(AIコンシェルジュ等)
- 広域MaaSの活用による情報提供やワンストップ予約・決済等の提供
- 駅の独自性・魅力向上(地域産品を扱う物販施設、地域の食を体験できる施設など) 等

■ 地域交通拠点から周辺観光地までの交通アクセス向上

検討
テーマ

- 地域交通拠点を中心とした観光地までの交通ネットワーク(カーシェア、自動運転バスなど)
- 観光地内のサイズ感に応じたシェアリング型移動サービス(自転車シェア、電動キックボードなど) 等

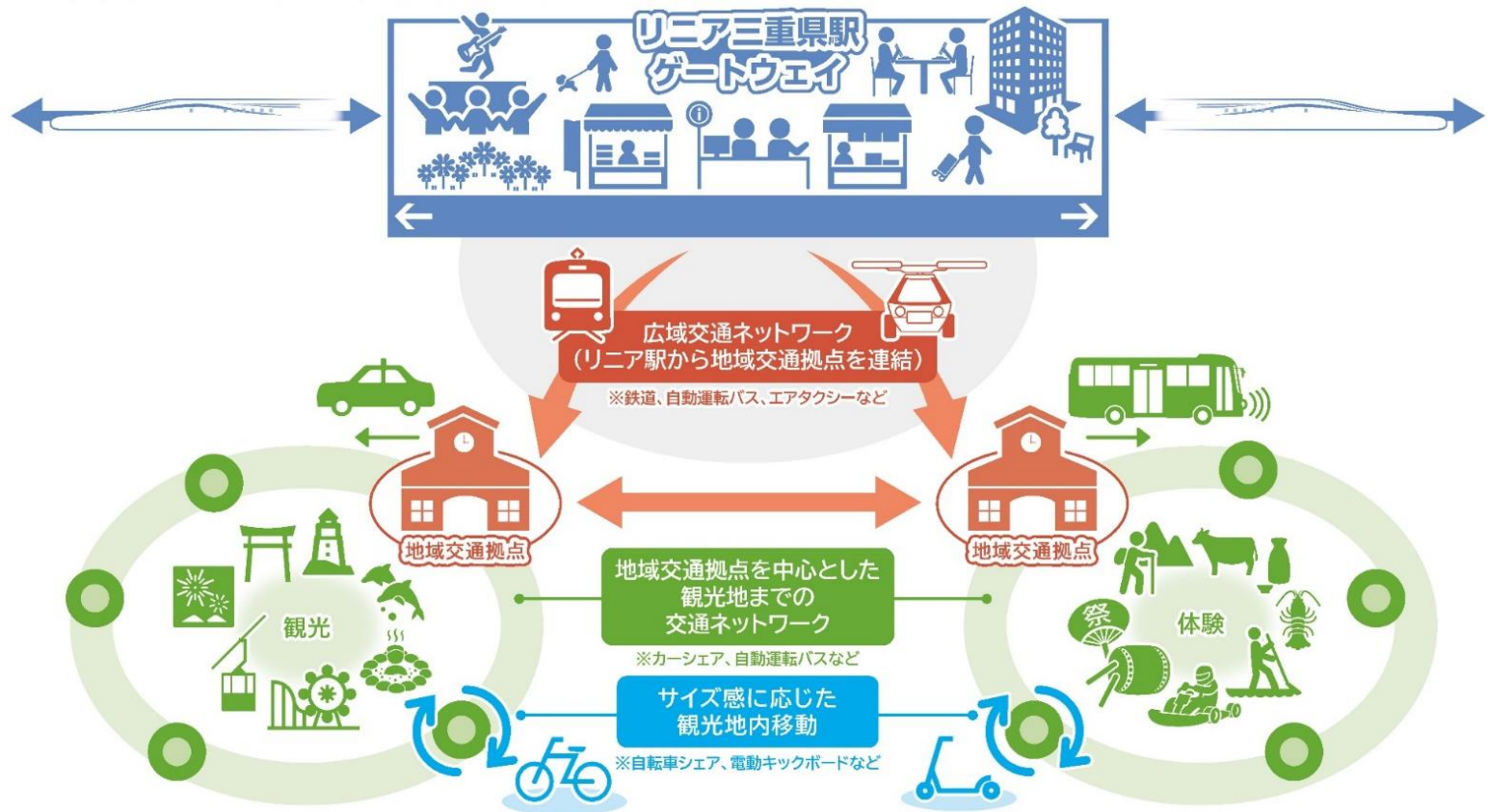
取組2 リニア駅から魅力ある滞在型・周遊観光の旅を提供する美し国三重に

■ 三重の豊富な観光資源を生かした滞在型の観光地の形成

検討
テーマ

- 歴史・文化等の共通の資源を結び付けた、ゾーンとしてのプロモーションの展開
- 周遊観光を可能にする旅行者のニーズに合わせた二次交通の充実
- インバウンド向けのプロモーション、多言語対応施設の充実
- 三重でしか味わえない上質な体験コンテンツの充実
- ガストロノミーツーリズム、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズム、サイクルツーリズム
- ブレジャーを促進するための取組やブレジャー用観光メニューの充実 等

新たな玄関口からはじまる観光交流拡大のイメージ



- リニア駅構内や駅周辺で県内全域の観光案内、地域産品の物販、地域の食やものづくりを体験。
- リニア駅から地域交通拠点を経て目的地までストレスなくスムーズに移動。
- 熊野古道伊勢路や斎宮、忍者、海女など県内各地の歴史・文化や自然を生かした、魅力的な滞在型の観光コンテンツが提供され、県内での周遊や滞在型の観光が拡大。

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

移動時間の短縮とデジタル技術の融合により、クリエイティブな活動が活発になる環境をつくります！

取組1 クリエイティブな人材や企業をひきつける交流空間を創出する三重に

■ 大都市圏や海外との産業・人材連携やイノベーションネットワークの展開

検討
テーマ

- 地域産業の情報発信やビジネス交流の拠点となる機能の整備
- 高速通信ネットワークなどのデジタルインフラの整備
- サテライトオフィス、シェアオフィス、ベンチャーオフィス環境の提供 等

取組2 大都市圏の多様さと地域をつなげ新たな産業・雇用を創出する三重に

■ 新たな産業の創出、関連産業の集積や研究開発機能の誘致

検討
テーマ

- スタートアップや新規事業の創出・業態転換等を支援するインキュベーション施設
- 高付加価値型産業や成長分野となる可能性がある研究所・産業の誘致・促進
- 革新的・先進的技術やサービスの社会実装実験場所の提供
- 公設試験研究機関のサテライト施設の誘致 等

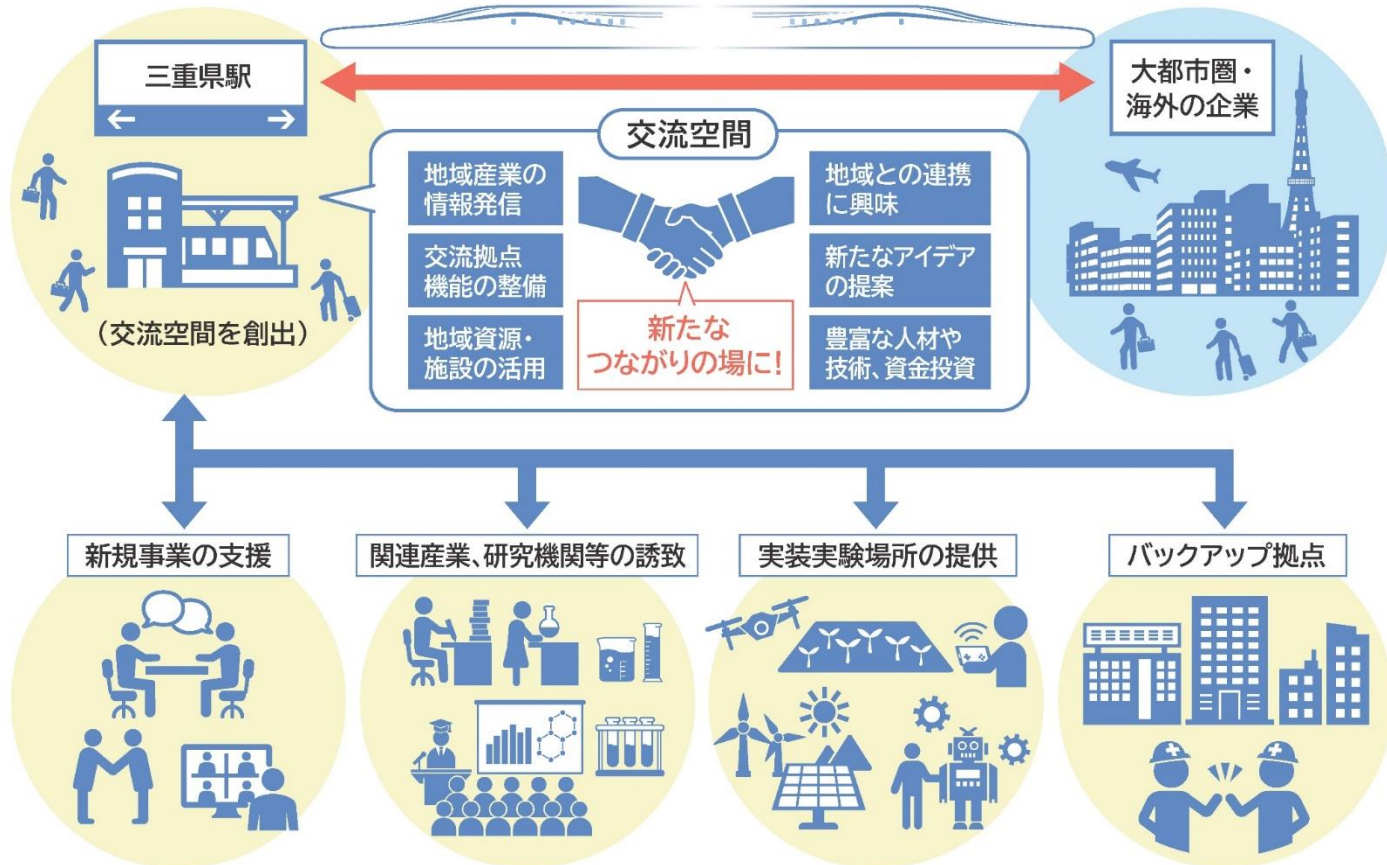
取組3 行政・企業・高等教育機関の機能移転やバックアップの拠点となる三重に

■ 災害に備えたバックアップ機能の強化、リスクの分散

検討
テーマ

- 防災を意識した行政・企業・高等教育機関の機能移転、バックアップ拠点の誘致
- BCP支援体制の強化(有事の際に機能する一体的な基盤インフラ等)
- エネルギーマネジメントシステム(EMS)構築
- 防災拠点機能および交通・輸送機能の補完・強化 等

新たな玄関口から生まれるビジネス交流拡大のイメージ



- 交流が活発になる環境を創出することで、新たなつながりが生まれ、活発なビジネス交流や販路が拡大。
- リニアと高速道路が連結強化され、ヒトの流れと物流の相乗効果により、IT産業や、関連産業、研究機関等の誘致が進み雇用の場を創出。
- 実装実験場所を積極的に提供することで、例えば、スマート化による担い手確保や生産性向上を図り、農林水産業が持続可能な産業に。
- 高速交通ネットワークとの連携によって日本の交通の要衝となり、大都市圏の行政・企業・高等教育機関の中核機能移転やバックアップ拠点が形成。

3つの基本戦略で期待される効果を県内全域に波及させていくためには、県民生活の利便性や交流拡大につながる基盤づくりが必要となります。

(1)リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成

県内外への玄関口としての機能を高め、リニアがもつ速達性の効果を県内全域に広がります！

取組1 新たな玄関口としての駅前交通ターミナル整備

検討
テーマ

- 交通拠点整備(バス、タクシー・ライドシェア、レンタカー・カーシェア、次世代モビリティ、空飛ぶクルマなど)
- 駅前広場・周辺の整備(バスタ、にぎわい空間、ウォークアブルな空間、公共交通共存空間など)
- 駐車場整備(自家用車、バス等各種モビリティ待機所) 等

取組2 新たな玄関口とつながる道路ネットワークの整備

検討
テーマ

- リニア三重県駅と高速道路を直結する道路整備
- **県内外との交流・連携を支える道路ネットワークの強化**
- リニア三重県駅と地域交通拠点を連結する道路ネットワークの強化
- 次世代を見据えた交通基盤の整備 等

取組3 鉄道ネットワークの強化・充実

検討
テーマ

- 既設鉄道網とのアクセス強化(新駅の設置もしくは新たな交通手段の検討)
- **東京・名古屋間の開業および全線開業のステージ毎に応じた県内外の既設鉄道網の利便性・快適性の向上(乗り換え利便性、高速化、観光列車・直通列車の運行など) 等**

取組4 新たな二次交通ネットワークの形成

検討
テーマ

- 鉄道と高速バスのクロスポイントを中心とした地域の交通拠点整備
- リニア三重県駅と地域交通拠点を結ぶ速達性のある移動手段
- 移動特性・ニーズに合わせた多様な地域周遊交通ネットワーク
- **地域内交通(定時・低速・高頻度の自動運転車両など) 等**

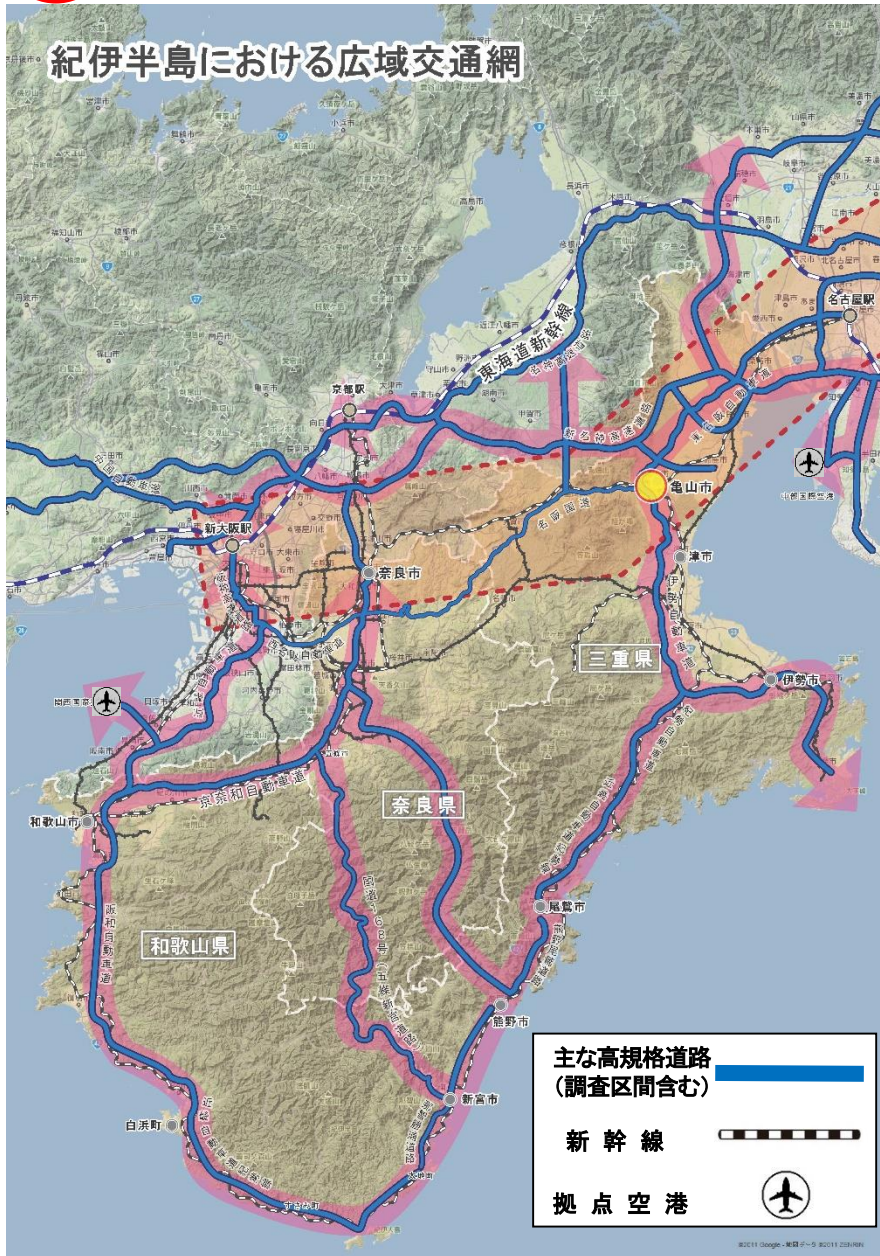
(2)リニア三重県駅を核としたまちづくり

何度も訪れたいくなる独自性のある駅や魅力あふれる駅まち空間をデザインします！

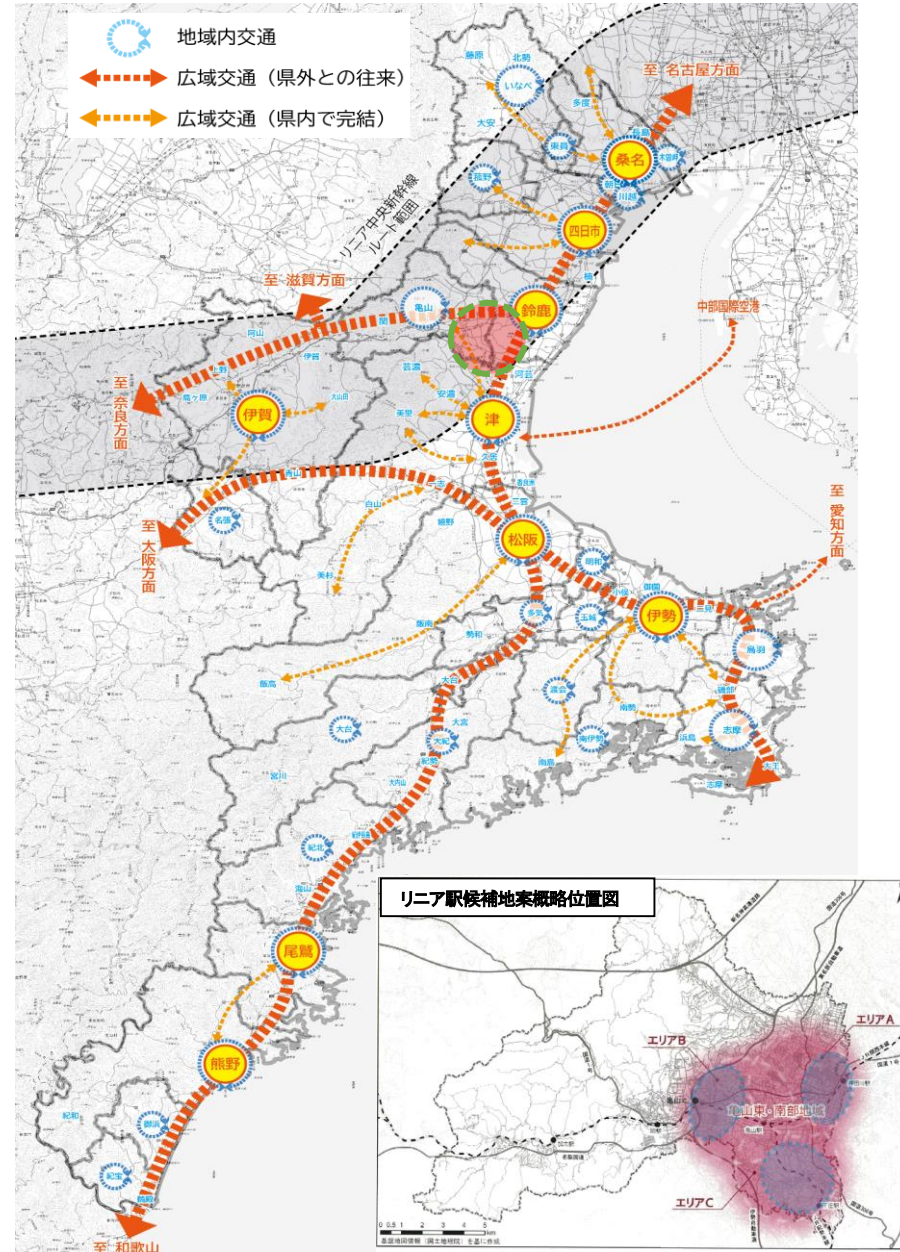
- リニア三重県駅周辺は、県内外からの交通機関利用者や地域住民を対象とする飲食・物販、宿泊などのサービス機能の立地のほか、生活拠点、産業・ビジネス、医療・教育、研究・開発、防災などの機能立地が期待できるポテンシャルの高いエリアとなります。
- 各機能に対する需要等をふまえながら、リニア三重県駅周辺も魅力的な目的地となるように民間資本の誘致や誘導などを含めて機能配置や、整備・運営手法、役割分担等について検討していきます。
- リニア三重県駅は、ヒトやモノの流れを大きく変えるようなポテンシャルを備えており、その開業効果を最大限に発揮させるため、リニア三重県駅周辺だけでなく、隣接する地域を含めた広域のまちづくりを検討していきます。
- リニアがもたらす防災上の効果を最大限に発揮させるため、災害時の支援拠点として防災拠点機能の補完・強化や効率的なエネルギーの運用などによる災害に強いまちづくりを検討していきます。
- 無秩序な開発を抑制するため、あらかじめ広域での土地利用コントロールの手法等を検討していきます。

新

広域圏高速交通ネットワーク



リニア三重県駅を核とした交通ネットワークイメージ



出典:三重県地域公共交通計画(R6. 3)を一部加工

駅前交通ターミナルと次世代交通のイメージ



出典:国土交通省「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン(R3.4)」



鉄道駅と空飛ぶクルマ等の交通結節点のイメージ © SkyDrive

新



英国ヒースロー空港における自動運転交通システム。T5空港ターミナル(1駅)と駐車場(2駅)の約3.8kmを結ぶ交通システムで2011年から運用しています。

ターミナルと近距離施設を結ぶ次世代交通 © Ultra Prt



LRTとは、Light Rail Transitの略で、低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システムのことです。近年、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されています。

出典:国土交通省HP

道路空間を活用したBRT



バス専用道を走行するBRT



BRTはBus Rapid Transitの略で、走行空間、車両、運行管理等に様々な工夫を施すことにより、速達性、定時性、輸送力について、従来のバスよりも高度な性能を発揮し、他の交通機関との接続性を高めるなど利用者に高い利便性を提供する次世代のバスシステムです。

出典:国土交通省「道路空間を活用した地域公共交通BRT等の導入に関するガイドライン(R4.9)」



DMVはDual Mode Vehicleの略で、道路とレールの両方を走行可能な新しい形態の交通機関です。道路を走行するときは、通常のバスと同じようにタイヤで走行しますが、レールを走行する際は前部から金属製の車輪が現れ、前部を浮かせた状態となります。動力は後輪のゴムタイヤから得ます。

出典:国土交通省HP

- リニア三重県駅を新たな玄関口として、リニア開業がもたらす効果を最大限に引き出し、その効果を県全体に波及・発展させるために、リニアとともに本県が歩む将来の「めざす三重の姿」を明らかにするとともに、それを実現するための取組の方向性を示すビジョンとなる「三重リニア基本戦略(仮称)」を取りまとめました。
- 「三重リニア基本戦略(仮称)」を活用し、リニアとともに歩む本県の将来のイメージを県民の皆さまと共有できるよう、みえリニアポータルサイトでの発信やみえリニア応援クラブ会員との連携など、これまでの取組の充実を図りながら、新たな発信の場を広げていきます。
- 今後、「三重県リニア基本戦略(仮称)」が示す「めざす三重の姿」の実現に向け、行動計画となる「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に着手し、具体的な施策や事業への展開を図ります。



リニア中央新幹線 (©JR東海)

入会金・年会費 無料

年齢制限なし

「みえリニア応援クラブ会員」募集中

リニア中央新幹線の県内駅位置の早期確定
および、1日も早い全線開業と一緒に応援して
いただける方を募集しています。



表紙デザイン: 亀山高校システムメディア科生徒制作

三重県リニア基本戦略(仮称)最終案の概要

1 戦略策定の趣旨

リニア効果の発現を期待ではなく必然へ リニア開業効果を県全体へ波及・発展させていく取組の方向性を示し、リニアとともに本県が歩む将来のイメージを共有

2 特に留意すべき社会情勢

- (1) 人口減少・高齢化の進展
- (2) 暮らし方・働き方の変化
- (3) デジタル技術の進展
- (4) 巨大災害リスクの切迫

3 リニアがもたらす効果

(1) リニアがもたらすインパクト

- 時速500kmのスピードで、東京と約60分、大阪と約20分で結ばれ、国際空港とのアクセスも格段に向上
- 日本の中心に位置する本県にとって、リニアと延伸される高速道路や新幹線、空路の高速交通とが連結強化することで、本県が大きく飛躍する起爆剤

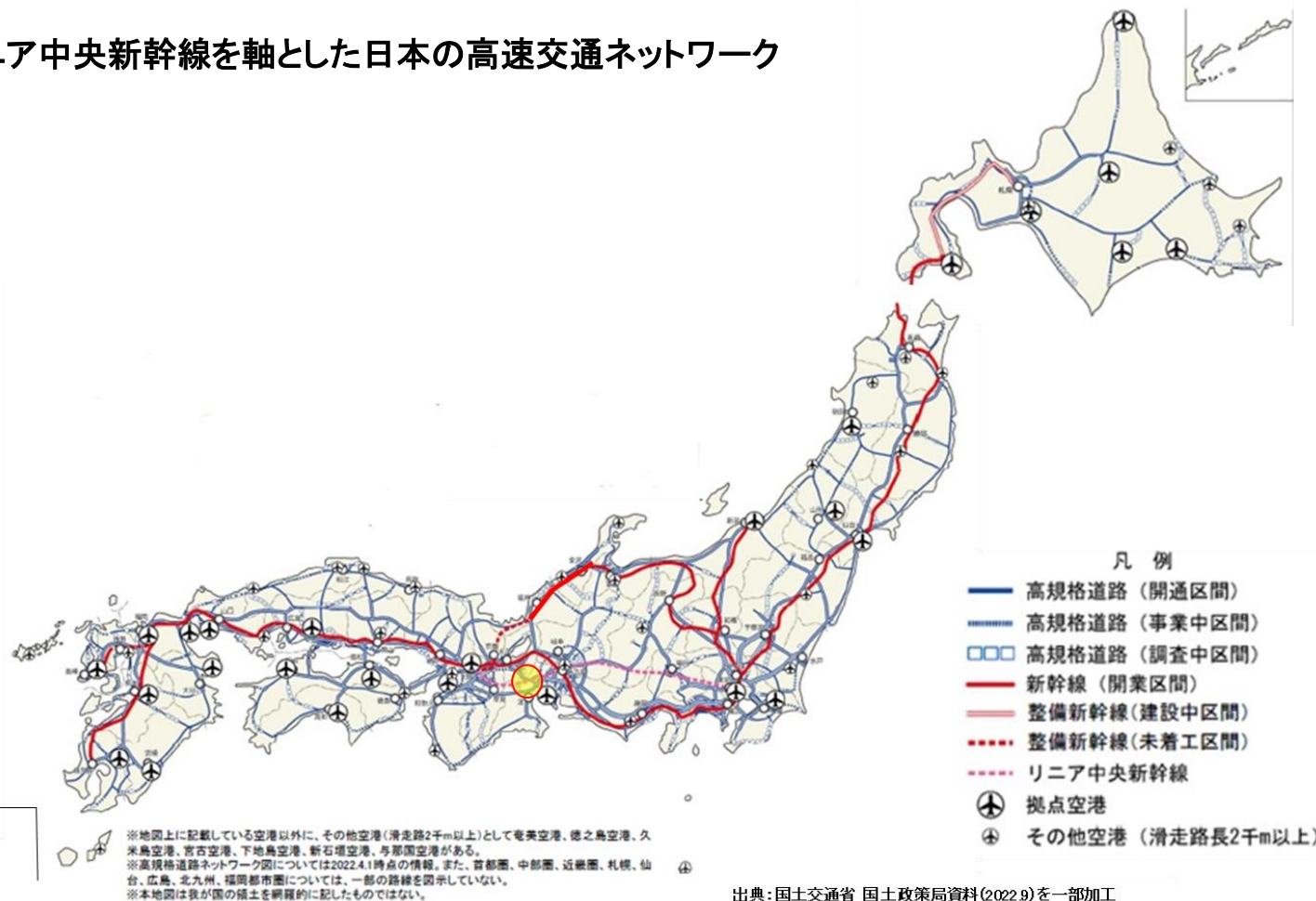
- ・東京(品川駅)まで 約 60分(約109分短縮)
- ・大阪(新大阪駅)まで 約 20分(約118分短縮)
- ・成田国際空港まで 約 132分(約135分短縮)
- ・関西国際空港まで 約 92分(約115分短縮)

(2) 懸念される課題

- 交流拡大の一方、スロワー現象(大都市圏への人口・資本流出)の懸念
⇒ **人口減少対策方針をふまえた取組を推進**
- 観光書客の増加の一方、日帰り客の増加、宿泊客の減少の懸念
⇒ **観光振興基本計画をふまえた取組を推進**
- 駅・本線による沿線地域や景観等への影響の懸念
- 建設発生土の処理など工事に伴う課題の懸念
- **巨大災害リスクの切迫の懸念**
⇒ 事業主体であるJR東海に対し必要な対策を求めるとともに、連携して対応を検討

暮らし	多様な暮らし方・働き方が選択可能になり、関係人口・交流人口の増加、移住・定住の促進に期待
観光・交流	三重がより身近に便利になり、長期滞在する高付加価値旅行者、外国人旅行者の増加に期待
産業・経済	首都圏・中部圏・近畿圏が一体化し、ビジネス交流や販路の拡大、新たな産業・雇用の創出に期待
災害リスク	日本の交通の要衝となり、バックアップ拠点や災害時の復旧・復興の大きな力となることに期待

リニア中央新幹線を軸とした日本の高速交通ネットワーク



4 めざす三重の姿

三重が持つ強みや特徴を生かし、国内外から選ばれる三重の実現をめざして

(1) 新たな玄関口から始まるこれからの時代に選ばれる三重

リニア駅を中心とした新たなリニア広域生活圏を形成するとともに、リニア開業効果を県全体へ波及・発展させ、次の3つの姿を実現する、これからの時代に選ばれる三重をめざす。

新街道※1で、三重での暮らしをより快適に、三重の魅力をもっと身近に便利に

圧倒的な移動時間の短縮と先進的な技術を組み合わせることにより、三重の豊かさと大都市圏の多様さを手に入れる
リニア時代の新たなライフスタイルを創出

都市部や近隣県との連携が進み、実用化が進む次世代交通に対応したリニア県駅と地域交通拠点とが効率的に結ばれ、
県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展

南北に連なる県内各地の豊かな魅力と新たな玄関口が繋がることで、
癒しの空間「日本のサードプレイス」※2として、三重にしかない暮らしや、働き、来訪スタイルを実現

※1 新街道…リニア三重県駅と地域交通拠点を次世代交通等で結ぶ新たな交通網。
 ※2 日本のサードプレイス

サードプレイスとは、自宅や職場以外の居心地のよい第三の居場所の意で、ここでは日本の中心に位置し、国内外からアクセスしやすく、三重が持つ歴史・文化、癒し・安らぎを体感できる快適な空間を示す。

(2) 選ばれる三重となるために

5つの戦略的視点をベースに基本戦略を策定

利便性向上

- 駅周辺エリアの計画的な機能配置と地域交通拠点の機能強化
- 既存の交通インフラの最大限活用、リニア駅と地域交通拠点を結ぶ次世代交通ネットワークの形成
- デジタルをはじめとする先端技術サービスの早期実装

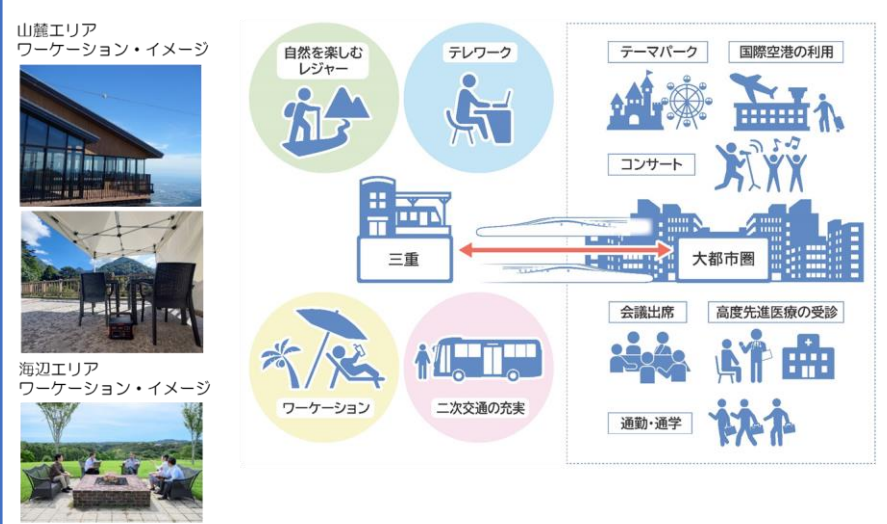
魅力発信

- 美し国三重にしかない強みを生かした一体的なブランディング
- 訪れたいくなる駅の独自性や魅力にあふれた駅まちデザイン



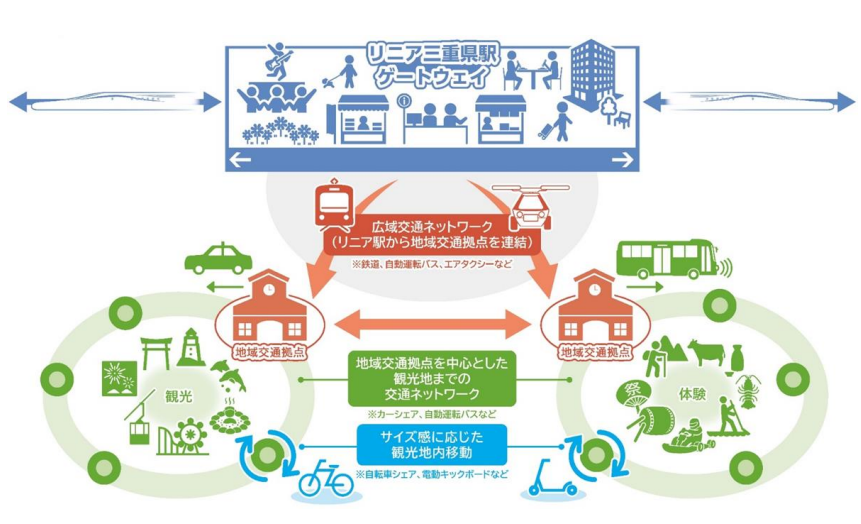
東京・名古屋間、東京・大阪間の段階的な開業を見据え、それぞれのステージに対応した取組を推進

リニア時代の新たなライフスタイルのイメージ



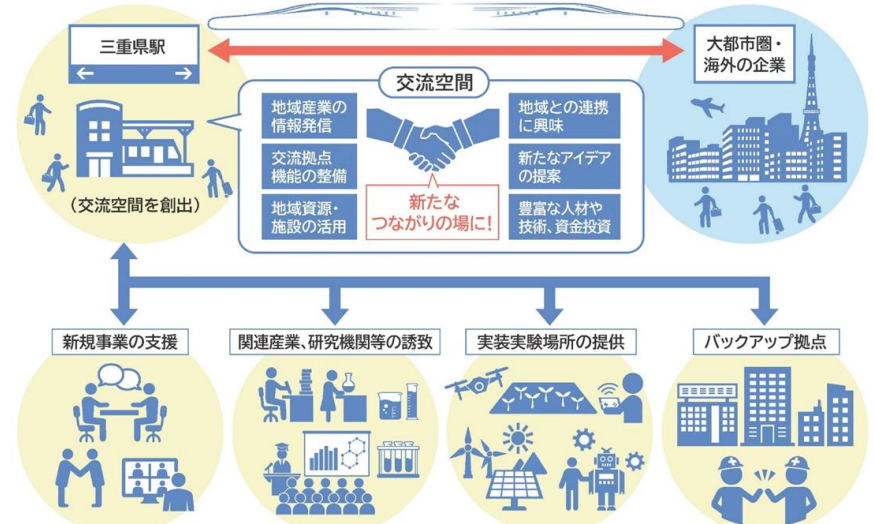
- 県内各地域交通拠点を核とした交通ネットワークの充実や先進技術の活用で日常生活が便利に。
- テレワークとリニアでの出張・通学の併用により、職業や進学の実現の幅が拡大。
- デジタル技術により大都市圏の機能を県内で利用できるとともに、リニアを活用してリアルな機能も享受。
- 県内各地の歴史・文化や自然を生かした、さまざまな体験や快適な空間、ワーケーション環境などを提供していくことで、国内外から多くの人が訪れ、リピーターとなり、長期滞在や二地域居住・定住へ。

新たな玄関口からはじまる観光交流拡大のイメージ



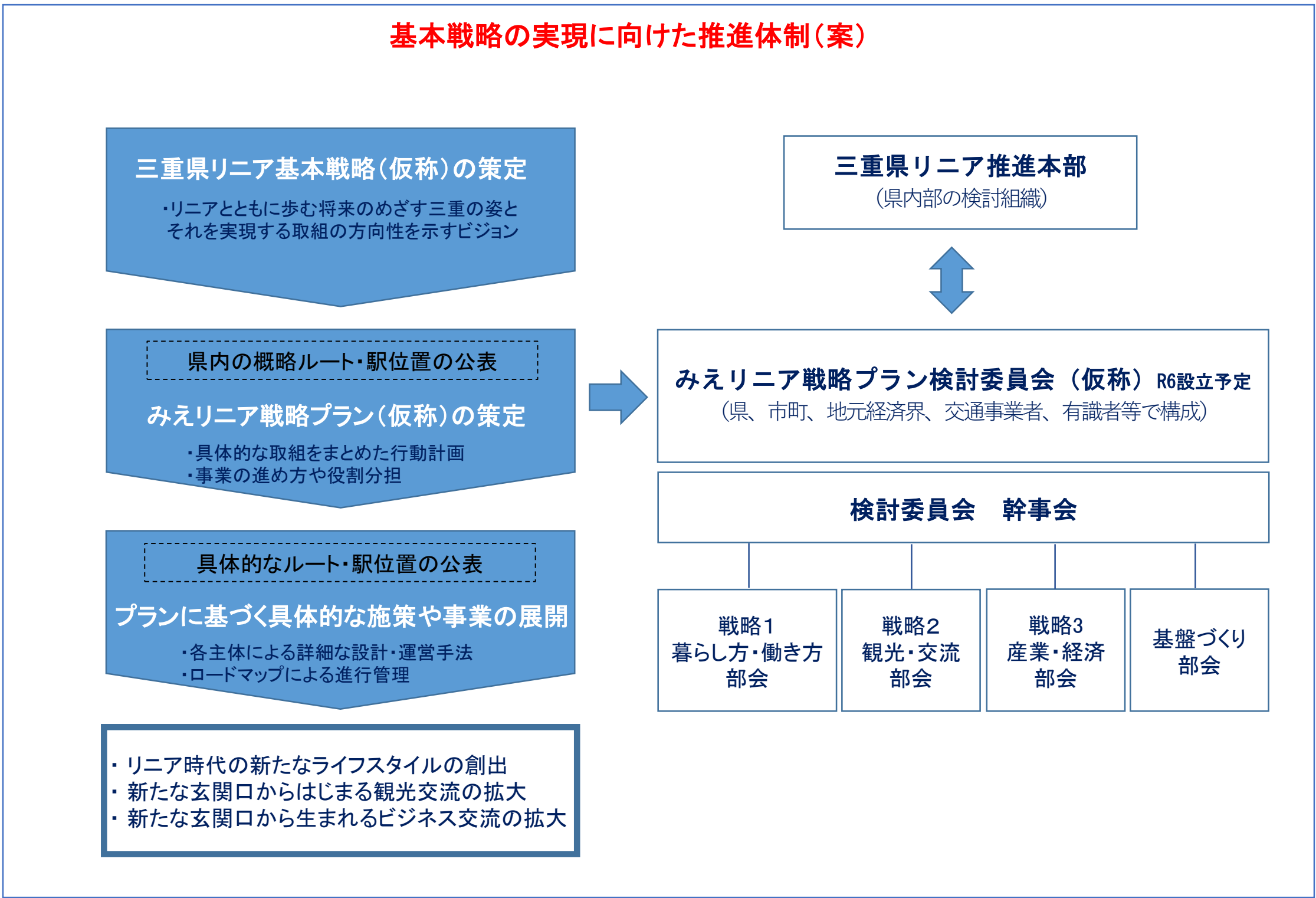
- リニア駅構内や駅周辺で県内全域の観光案内、地域産品の物販、地域の食やものづくりを体験。
- リニア駅から地域交通拠点を経て目的地までストレスなくスムーズに移動。
- 熊野古道伊勢路や斎宮、忍者、海女など県内各地の歴史・文化や自然を生かした魅力的な滞在型の観光コンテンツが提供され、県内での周遊や滞在型の観光が拡大。

新たな玄関口から生まれるビジネス交流拡大のイメージ



- 交流が活発になる環境を創出することで、新たなつながりが生まれ、活発なビジネス交流や販路が拡大。
- リニアと高速道路が連結強化され、ヒトの流れと物流の相乗効果により、IT産業や、関連産業、研究機関等の誘致が進み雇用の場を創出。
- 実装実験場所を積極的に提供することで、例えば、スマート化による担い手確保や生産性向上を図り、農林水産業が持続可能な産業に。
- 高速交通ネットワークとの連携によって日本の交通の要衝となり、大都市圏の行政・企業・高等教育機関の中核機能移転やバックアップ拠点が形成。

- リニアとともに歩む将来のめざす姿とそれを実現する取組の方向性を示すビジョンとなる「三重県リニア基本戦略（仮称）」を策定。
- 「三重県リニア基本戦略（仮称）」を活用し、リニアとともに歩む将来のイメージを県民の皆さまと共有できるよう、新たな発信の場を広げ機運醸成の取組を充実。
- 今後、「三重県リニア基本戦略（仮称）」が示す「めざす三重の姿」の実現に向け、行動計画となる「みえリニア戦略プラン（仮称）」の策定に着手し、具体的な施策や事業を展開。



「三重県リニア推進本部」設置要綱

(趣旨)

第1条 リニア中央新幹線が本県にもたらす効果を最大化し、リニア開業を見据えた地域づくりを進めることを目的に「三重県リニア推進本部」を設置する。

(基本取組)

第2条 三重県リニア推進本部は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について取り組むものとする。

- (1) リニア中央新幹線の建設促進に係る施策の立案及び推進に関すること。
- (2) リニア中央新幹線に係る諸課題の解決に向けた取組に関すること。
- (3) リニア中央新幹線を活用した地域づくりに関すること。
- (4) その他必要と認められる事項に関すること。

(組織)

第3条 三重県リニア推進本部は、本部長及び本部員をもって組織する。

- 2 本部長は、知事とし、本部会議を招集する。
- 3 本部員は、両副知事、政策企画部長、地域連携・交通部長、県土整備部長とし、検討の進捗をふまえて関係部局長の出席を求める。
- 4 三重県リニア推進本部の取組の企画調整を行うため、企画課長、広域交通・リニア推進課長、道路企画課長をメンバーとするWGを設置する。
- 5 三重県リニア推進本部の事務局は、地域連携・交通部広域交通・リニア推進課に置く。

(その他)

第4条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年2月8日から施行する。

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。